

第20回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会 【レギュレーション (TD 通達)】

- 1. 大会運営** 本大会の運営は、(公社)日本ホッケー協会競技運営規定並びに第20回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会実施要項による。
- 2. 競技規則** 2019年度版(公社)日本ホッケー協会ホッケー競技規則による。
- 3. 競技時間** 試合時間は、前半20分・後半20分とし、前後半の間に5分間の休憩をおく。
ただし、交流戦は、前半15分・後半15分とし、前後半の間に5分間の休憩をおく。
- 4. 試合管理** 試合時間は、当該試合TOが管理する。ただし、前・後半終了間際に与えられたペナルティーコーナーは、規定の試合時間が終了しても中止されることはなく、それが完了するまで続けられ、終了したときは、アンパイアのホイッスルをもって規定時間の終了となる。
- 5. 競技方法**
 - (1) 全試合トーナメント方式によって実施する。なお、1回戦(初戦)の敗者同士による交流戦を行う。
 - (2) 規定の時間内に勝敗の決しないとき、試合終了後「6.」に定めるSO戦を行い、勝敗を決する。ただし、交流戦においては、勝者を決定しなければならない試合を除いては、SO戦を行わない。
- 6. シュートアウト戦(SO戦)** **※ 詳細は2019年版日本ホッケー協会競技運営規定を参照**
 - (1) 両チームの監督は、レッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた、エントリー済みの選手の中から5名の選手と1名のゴールキーパーを指名する。
 - (2) 両チームの主将によりトスを行い、先攻・後攻を決める。その後、両チーム5名ずつの選手により交互に攻防を1巡行い(計10回)、得点の多いチームを勝者とする。
 - (3) (2)の方法によって勝敗の決しない時は、「サドン・デス方式」、すなわち両チームが同数の攻防を行った中で最初にリードしたチームを勝者とする方式により、再SO戦を行う。この時は、ゴール数が同じであった場合、選手はプレー不可能な者を除き各チーム同じ選手により先攻後攻を入れ替え、以降のSO戦を行う。ただし、順番は変えてもよい。
- 7. 試合の中断と再開**

天候等やむを得ない理由により、試合が中断された場合は、下記によって試合を再開する。

 - (1) 再開の試合の場合は、中断した時の得点で残りの時間のみ試合を行う。
 - (2) 再開の試合の期日・競技場・審判員等は、これを変更することができる。
 - (3) その他の事項についてはTDの判断により決定する。
- 8. チームベンチ**

チームベンチには、スターティングリストに記載された者以外は入ることはできない。
(但し、中学校部会申合せ事項およびTDの許可を受けた者はこの限りではない。)

なお、「選手」「スタッフ(監督・コーチ)」「手当者」は、登録証(写真添付)を持参してベンチ入りすること。

※登録証については、中学校部会から出されている「登録証」の活用についてを参考にすること。
- 9. フィールドへの立ち入り**
 - (1) 試合中は、当該審判員・試合に出場している選手以外は、誰もフィールド内に入ることはできない。但し、当該審判員の許可を得た者は、フィールド内に入るができる。
 - (2) 試合中、選手に怪我等が起こった場合は、スターティングリストに明示された手当てする者の中から1名と監督またはコーチのどちらか1名、計2名以内が、当該審判員の許可を得てフィールド内に入り、応急処置を行うことができる。このとき入場した者はフィールドの選手に対してコーチングをしてはならない。

10. 選手の交代

- (1) 選手の交代は、その試合にエントリーされた者の中から選ばれる。
- (2) 各チームは、試合中随時どの選手でも交代できる。ただし、ペナルティーコーナーが与えられている間は、誰も交代できない。(負傷した守備側のゴールキーパーは除く)
- (3) 選手の交代は、何回行ってもよい。
- (4) 一時退場（イエローカード：3分以上）させられた選手に対する交代は、当該選手の退場時間中は許可されない。
- (5) 選手の交代は、テクニカルテーブル前方のセンターの白いライン付近で行われる。その際、時間の停止は行われぬ。ただし、ゴールキーパー及び負傷者の交代については、審判員の管理下で行われる。
- (6) 審判員の指示にて負傷退場及び手当を受けた者は、最低2分間ベンチに留まらなければならない。(ゴールキーパーを除く)

11. 確認事項

- (1) ペナルティーコーナーの保護用手袋およびフェイスマスクの使用は認める。ただし、試合開始前に必ず当該試合TOに使用確認と許可を得ること。なお、怪我を防止するため、フェイスマスク等の使用を奨励する。
- (2) 各チームのプレーヤーは正規の番号をつけ、大会期間中は変更できない。
- (3) キャプテンは、キャプテンマークを必ずつけること。
- (4) スパッツ、アンダーシャツについては、中学校部会での申合せ事項を優先する。
※スパッツは禁止、アンダーシャツを着用する場合は各チームで全員が同じ仕様のも
のを着用しなければならない。着用と非着用の選手が混在していてもよい。なお、セカ
ンドユニフォーム着用時はファーストユニフォームと同系色であれば認める。
- (5) 試合時には、相手チームと異なる色のユニフォーム(予備のシャツ・パンツ・ストッキングの3種類共に)を必ず用意すること。
- (6) 選手はシャツ(ブラウス)裾を常にきちんとパンツ(スカート)の中に入れ、(パンツアウトのユニフォームを除く)すね当てを必ず着用してストッキングを上まであげて履くこと。
- (7) マウスガードは必ず装着すること。(GKは義務対象外)
※「未着用届」が提出されている選手については、着用を免除する。
- (8) 今大会ではフル装備のゴールキーパーを必ずおくこととする。フル装備のゴールキーパーは、怪我の防止のため装具を完全に着用すること。特にアンダーパッドは必ず装着すること。
- (9) ベンチは、[競技日程表]の左側チームがジャッジ席から見て左側とする。
- (10) 試合開始15分前にメンバーチェック及びリングパス、服装・装具の点検を実施するので、次試合のチームは次試合ベンチで待機すること。なお、リングパスについては各チーム最初の試合のみ行う。(シールで対応予定)
- (11) 全試合とも「人工芝コート」で行うので、「ポイントスパイク」の使用は認めない。
- (12) 試合中、乱暴なプレーや審判員に対する誹謗等、スポーツマンらしくない行為は、厳に戒める。(監督・コーチ・担当者・応援団についても同じ)
- (13) 選手が負傷により出血したとき、頭にボールが当たったときは、直ちに退場すること。止血処理と傷の手当てが完了するまでは、再出場できない。(TOに確認後再出場)
- (14) 競技中の疾病・傷害等については、大会本部で応急処置を行うが、その後の治療等はチームの責任において行うこと。(「負傷事故報告」の提出)
- (15) 試合開始時に11名そろわない場合、その試合は没収試合とする。没収試合があった場合は、相手チームの不戦勝とする。(得点は5:0で相手チームの勝利とする)
- (16) 当大会において、抗議制度はない。
- (17) 試合終了後、両チームの監督は、テクニカルテーブルですみやかに署名すること。
- (18) 監督会議終了後、「行動規範 確認書」を各監督は提出する。各監督は、JHA競技運営規定付属書の行動規範を確認しておくこと。
- (19) その他、本規定に定めのない事項または、不測の事態が発生した場合は、TDの指示に従うこと。